

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2471100236
	医療法人 茜会
事業所名	グループホームみやき
所在地 (電話番号)	熊野市井戸町616 (電話) 0597-89-2516
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 18 日(火)

## 【情報提供票より】平成19年8月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 7,8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円~
敷金	有( )円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	700 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 8 月 30 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 91.1 歳	最低 88 歳	最高 99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大石医院、前川歯科、熊野病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

生活をする上では便利な市街地にあり、病院を改造して作られた事業所である。この地域におけるグループホームの第一号であり、先がけ的存在である。職員同士のチームワークはよく、管理者と職員の意思疎通もうまくいっていて、職員の意見が運営上反映されやすい。この事業所の取り組みで、最も惹かれたのは、毎月家族に当てて送っている手紙で、心をこめて近況を手書きで認め、直近の写真を必ず添えていることである。一般に《広報誌》や《ホームだより》として、全体の様子を知らせる取り組みは多いが、一人ひとりについて、しかも毎月欠かさず続けているところは立派であり、家族に大変喜ばれているというのうなづける。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題、運営理念の掲示を、わかりやすい言葉で、見やすい所へ掲示を、という点では、職員、利用者が一緒に考えて《ゆっくり ゆったり のんびり》という言葉が、味わい深い字で書かれ、玄関ロビーや、共有スペース等目に付きやすい所に掲示されていた。また、玄関アプローチ部分の雰囲気作りは、花をたくさん植えたり、魚を飼った水槽を置いたりして、雰囲気作りの工夫がされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	②	<p>外部評価で指摘された内容については職員全員はもとより、利用者、家族にも見やすいところに掲示して、みんなのものとして改善の努力をしている。例えば、《理念を判りやすく》という指摘について、職員利用者が一緒になって考え、書くのも一緒に書いている。</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はまだ一回しか開催できていないが先ずはじめに、構成員の皆さんに《みやき》の運営理念をはじめ、実際の姿をよく理解してもらうことから始めている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月必ず、一人ひとりの状況を伝える手紙を家族に送っている。写真と、金銭出納帳の写しと、領収書なども一緒に入れて送っており、大変喜ばれている。又、面会の機会に色々希望や苦情などを聞き、その内容に添えるように全員で取り組んでいる。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所からは地域の清掃活動に参加するようしており、地域の方々からは事業所の夏祭りや、誕生会、敬老会など参加してもらい、ダンスや、保育園児の演技などを楽しませてもらっている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作っており、判りやすく《ゆったり ゆっくりのんびり》という言葉に表現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	《ゆっくり、ゆったり、のんびり》過ごせるように、食事のときははじめ、なにかにつけて、気ぜわしくなったりあわてなくて済むように配慮しながら支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所からは地域の清掃活動に参加している。事業所の行事には地域のダンスクラブの人たちや保育所の園児たちが参加してくれて、交流を深めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は皆です中で、新たな気づきを得られるときがあるし、外部評価は利用者、家族、職員誰でもがみやすい所に掲示して、改善を指摘されたことについては全員で取り組むようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は立ち上げていて一回会合を持った。構成メンバーの皆さんに、改めて《みやき》の運営の実際をよく知ってもらおうことから取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携をどのようにしていけばよかわからなかったこともあり、事務的な手続きや書類の作り方などの相談にのってもらったことはあるがそれ以上強めることは出来ていない。	○	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの人もいるので、今後は、資質向上のための研修や地域とのつながりを強めていくための手がかりを得るため積極的に働きかけていくとの意向を持っておられるので期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月必ず、利用者一人ひとりの状況を知らせる手紙を写真を添えて送っていて、家族からは大変喜んでもらっている。金銭出納帳のコピーと領収書も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のときに色々意見や希望を聞くようにしていると共に、法人の役員の中に家族も入ってもらっていて苦情や要望などが出せるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	あまり異動はなく、たまにあったときは十分配慮したので、利用者の中に混乱もダメージもなく、自然に受け入れてもらえた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会に参加した人は《研修ノート》に記入、報告をし、カンファレンスの機会などを利用して、伝達研修のように研修、講習の内容を全員のものとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流の場はまだないが、月一回の定例会である《グループホーム連絡協議会》を、最近、はじめて当地域で開催されたことにより、地域の交流も必要であるとの認識をおたがいに持つ機会となった。	○	折角の機会を活かし今後のネットワーク作りや、交流の場作りにつなげてもらえるように期待したい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず、1週間から2週間程度のテスト入居の手順を踏んだ上で改めて入所の気持ちを確認して、利用に繋げるようにしている。常に利用者、家族共に安心、納得している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	経験豊かな利用者から職員が教わり、学ぶことは多く、(例えば調理の手順や野菜作りの方法など)単に、「介護する人」にとどまらず、共に支えあっていることを実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で、ちょっとした動作や言葉、仕草などを通して利用者の思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認定更新時に、面談し意向を確認、計画に反映するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全人的生活支援アセスメントのソフトを使用した生活支援計画書が作成されていて6ヶ月に一回見直しを行っている。途中、状況変化のあるときは、家族や関係者との相談や申し送りノートなどを利用して職員間の確認を経て見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした支援は出来ていない。	○	今後短期入所生活介護サービスも提供していく方向で準備を進めているとの事なので、期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、嘱託医が定期的に往診に来てくれるほか、嘱託医以外のかかりつけ医を持っている人については通院等受診の援助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは早い段階で相談し方針を共有しあっている。しかし、現在は最後の看取りは行っていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドや、プライバシーを損ねるような対応は見られなかったし、記録等の取り扱いもきちんとされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースが尊重され、自室でずっと寝て過ごす人あり、共有広場で黙って過ごす人もあり、それぞれ思い思いにゆったり過ごしている姿が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気分転換に、外へ弁当をもって行って食べるとか、買物に出た機会に外食を楽しむとか色々工夫をこらして食事が楽しめる様に支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在のところ、午前中の中の入浴希望者は一人もおらず、殆どが午後に入浴を喜んでいる。風呂嫌いな人はタイミングを見計らって誘うようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い頃縫い物が達者だった人には雑巾を縫って貰うとか、洗濯物の好きな人には洗濯物を干したりたたんだりしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行き付けの理髪店に出かけたり、買物に出かけたり、事業所が所有する農園にやさいづくりに出かけたり日常的に外出支援は行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的にはかけないようにしている。が、調査時は入所して間がない人がいて、間違えて人の部屋を開けたり、はいたりするため、ほかの利用者の混乱や不安解消のためやむを得ず、簡単な鍵を全居室につけていた。一日も早く、間違わなくなる様に支援して、カギのないケアにもどす意向である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練は行っている。が、地域の人との連携体制は取れていない。	○	運営推進会議等を活用して地域との連携の糸口を見つけ、防災ネットワーク作りをされるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きちんと記録をとって皆が状態を把握できるようにして、それに基づき、声かけなどの支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、不快な音も光もなく、季節の花が飾られてあったり、塗り絵などの作品が旨く飾られていて、居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のものは殆ど、家族によって揃えられたものであり、本人が居心地よく過ごせるように配慮されている。		